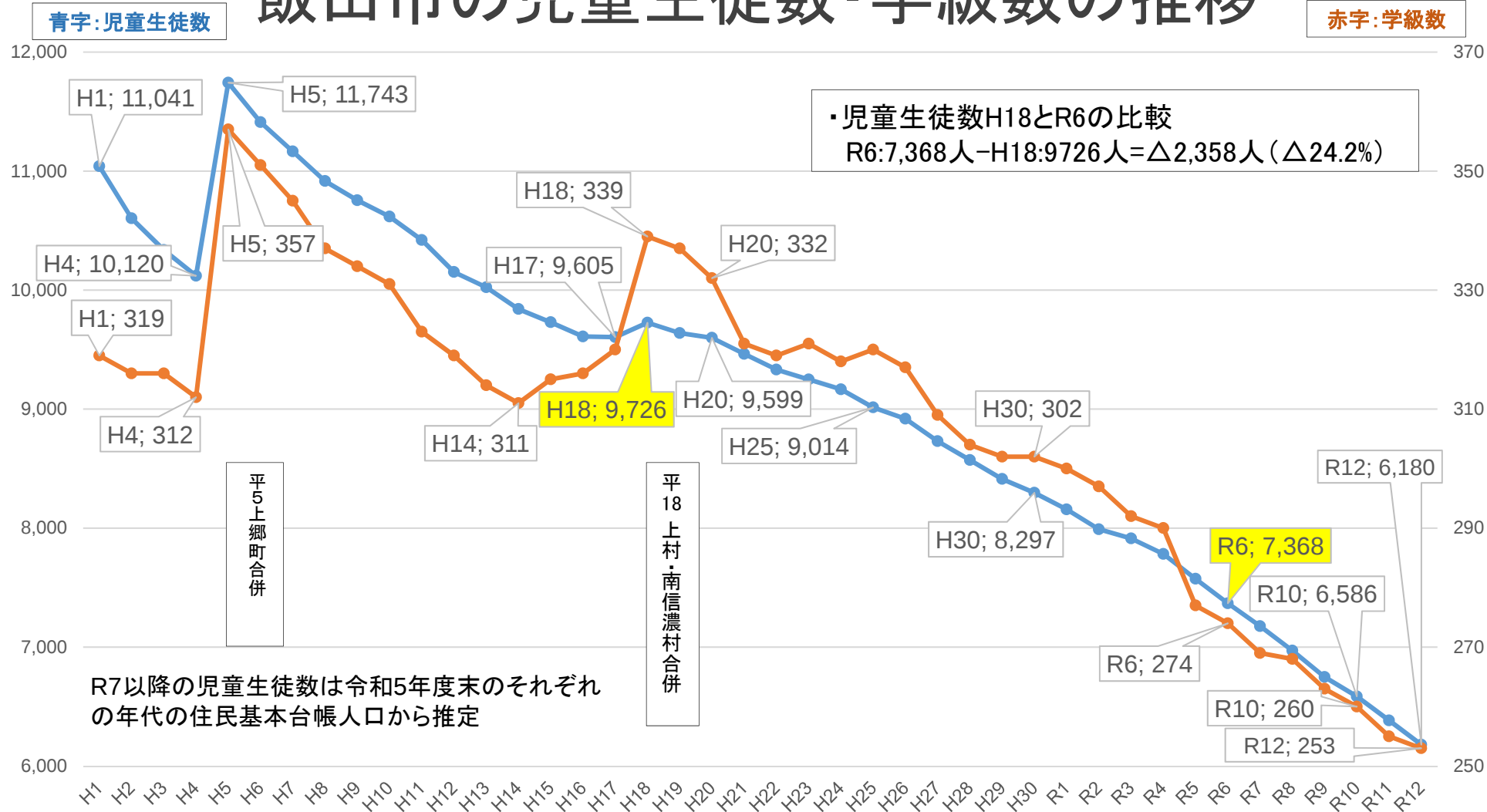


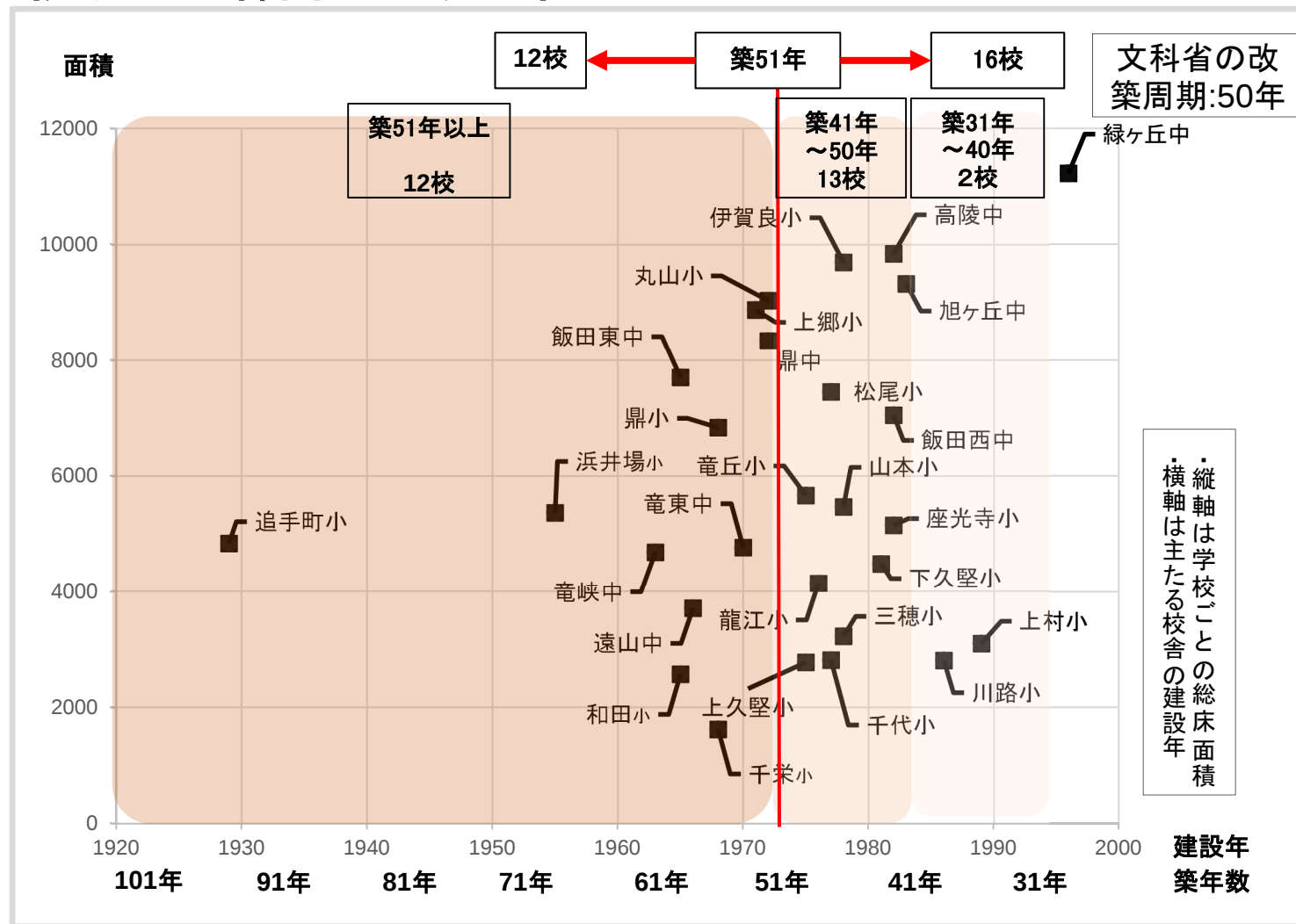
飯田市の児童生徒数・学級数の 推移と施設の状況について

飯田市の児童生徒数・学級数の推移



- 少子化にともない児童生徒数が減少し続けており、このまま推移するとR6年からR12年まで毎年平均約200人ずつ減り、R12年はピークのH5年の約53%になることが予測されます。
- 児童生徒数の減少により小規模校が増えて、教職員数も減少していきます。
一定の学級数を下回ると小学校では専科教員が配置されないことや、中学校では全ての教科に専任教員を配置することができなくなります。

学校別整備状況分布(主たる校舎の建築年・令和6年度現在)



- 小中学校28校(小学校19校、中学校9校)のうち、3分の1以上の12校が令和6年度時点で国の改築目安とされている築後50年を経過し、今後10年間の内には、さらに13校を加えた合計25校が長寿命化のための大規模改修や改築についての検討が必要な状況となります。
- 学校施設を長寿命化せずに、現在の学校数のまま修繕・改築していく場合は、今後40年間にわたって毎年多額の費用が必要になり、教育関連事業の実施に多大な影響を及ぼすことになります。